事例No.	1060
公表年度	R2
団体の属性	指定都市
団体名	愛知県名古屋市

事例区分	公営企業

タグ	・交通事業 ・ICT ・（行政改革）業務の効率化

事例種類	ICTの活用

事例内容・タイトル

公共車両優先システムの導入

出典

地方公営企業の抜本的な改革等に係る先進・優良事例集

交通：事例16

○ 事例名等

事例名	公共車両優先システムの導入
団体名	名古屋市
事業名（事業区分）	交通事業（自動車運送事業）

○団体及び事業の概要

行政区域内人口（人）	2,321,727	行政区域内面積（㎢）	326.5
事業開始年月日	昭和5年2月1日	営業路線（km）	766.8
年間走行距離（km）	36,209,343.8	年間輸送人員（人）	128,734,076
在籍車両数（両・台）	1,018	職員数（人）	1,560

※上記表中の「行政区域内人口」は、平成31年１月１日時点。「行政区域内面積」は、平成30年10月１日時点。それ以外の計数は、H31年３月末時点。

1．取組の背景、検討を開始した契機・導入過程

（1）取組の背景
平成16年 6 月11日名古屋市交通問題調査会『なごや交通戦略』（諮問第 2 号答申）の４本柱の一つに、「使いたくなる公共交通の実現」を掲げており、短期実施施策であるバスの機能強化を実現する手段の一つとして、PTPS（公共車両優先システム、Public Tranportation Priority Systemsの略）の導入が位置付けられた。

（2）検討を開始した契機・導入過程
平成15年3月
・名古屋市長、名古屋市交通問題調査会に対し「自動車利用の適正化を図り、公共交通への転換を促進する施策」について諮問。

平成16年度
・名古屋市交通問題調査会、市長の諮問に対し「なごや交通戦略」として答申。
・県警本部からPTPS設置のため車載器の搭載要望。

平成17年度
・東海橋レーンを走行する市バス車両にPTPS車載機導入検討。
・万博協会から車載器の無償譲渡を受ける（愛・地球博のシャトルバスで使用していた130台）。

平成18年度
・東海橋レーンを走行する市バス車両にPTPS車載機を導入、稼働（なお、PTPS導入の一般向けPRは行っていない。）。

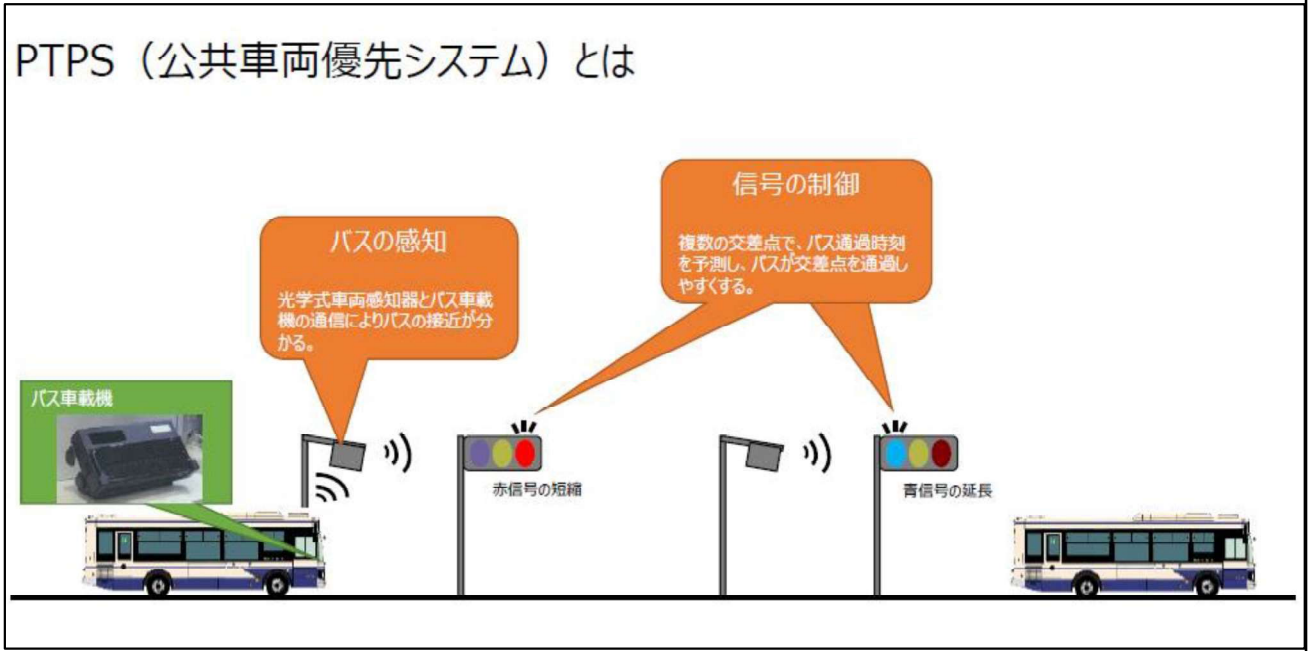
平成28年度
・県警が新たに整備された名古屋多治見線（志段味西小学校東より東谷橋まで）の道路整備に伴い、交差点の信号機にPTPSの整備を実施。

平成29年度
・上記区間を走行する大森営業所車両23両に、PTPS車載機器の搭載を行う。

2．取組の具体的内容とねらい、効果

(1)取組の具体的内容とねらい
平成18年度導入分
・市道東海橋線の明徳橋東～東海通の区間にて運用開始。
・車載器130台は、当該区間を走行する中川営業所の車両に設置。

平成29年度導入分
・名古屋多治見線の志段味西小学校東～東谷橋区間にて運用開始。
・車載器23台は、当該区間を走行する大森営業所の車両に設置。



(2)効果
①所要時分の短縮
明徳橋東～東海通間の東行きにおける計測結果は以下のとおり。
（愛知県警の計測結果。朝ラッシュ時間帯6:30～9:00における計測）

	平均所要時分
導入前	17分12秒
導入後	16分19秒
改善	53秒

②現場の声
・バスが交差点に近づくと、信号が青のままなので、非常に走りやすい。
・バスが比較的時間どおりに来るので、お客さまからの評判も良い。
・交差点の歩行者用信号は赤になるのだが、車用信号は青のままなので、停車するつもりが通過できてしまう。

3．他の自治体の参考となる点、今後の課題等

(1)他の自治体の参考となると考えられる点
・車載器の取付けに関して、角度等、それほどシビアではない。
・濃霧などで光を遮られると作動しないが、雨天程度であれば問題はない。
・当該区間の流れがよくなるので、当該区間を最後に持つ系統は走りやすくてよい。しかし、当該区間を最初に持つ系統では、その流れの良さにより、バス停での時間調整が多くなってしまうことがある。

(2)今後の課題等
・PTPSは警察が整備主体であり、局単独で実施・拡張ができない。
・大森営業所分23台分を除く車載器については、電池寿命が2年程度であるため、定期的な交換や維持費（1台1万円程度）が必要となっている。

〇問合せ先

担当課	名古屋市交通局財務課		
TEL	052-972-3838	MAIL	zaimu@tbcn.city.nagoya.lg.jp